

ヘンデル盤を聴く(2)(HP 収載)  
—最新アナログシステムでの試聴(2)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行いバッハとテレマンのアナログ盤を聴き直してきました。今回もヘンデル盤を聴いてみることにしました。

2. ヘンデルのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、バッハのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

今回は、次のヘンデル盤を聴いていきます

ARCHIV 28MA 0045

G.F.ヘンデル シャコンヌト長調  
組曲ニ短調  
組曲ホ短調  
組曲変ロ長調  
組曲ト長調

トレパー・ピノック (チェンバロ)

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

G.F.ヘンデル メサイア  
オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. ヘンデルのアナログ盤の試聴結果

ARCHIV盤のシャコンヌト長調と組曲集は、TELDEC、R、第4時定数MidとDECCA、R、第4時定数Midで聴き比べてみましたが、後者の方はチェンバロの音のエッジが立ちすぎるので前者を採りました。シャコンヌト長調は、チェンバロが力強く響きます。組曲は、繊細でクリアーな音で、緩急の楽章が交互に繰り返されます。

Angel (東芝 EMI) 盤のメサイアは、これまでどおり、EMI、R、第4時定数Low

で聴いていきます。Magic Mat IIの導入(2)の Magic Mat IIの効果の再確認となりましたが、Magic Mat IIの導入(2)の印象が再現されました。

#### 4, まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)、ピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Magic Mat IIの結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上